

部局名：文学部人文学科歴史学コース

学位名：文学

学位プログラム名：人文学（歴史学）、および、国際コース・人文学（歴史学）

新ディプロマ・ポリシー

◆教育の目的

文学部の諸学問の根本は、私たちが用いる言葉を通じて、人間の本質とその営為を探究することにあります。ここで言葉は、単なる情報伝達的手段ではなく、人間の精神文化を培い、表現し、蓄積する知の宝庫を意味しています。

こうした言葉に宿る古典的・人間的叡知について、九州大学は『学術憲章』第2条（研究の使命）で、次のように定めています。

1. 九州大学は最高学府として、人類が長きにわたって遂行してきた真理探究の道とそこに結実した古典的・人間的叡知とを尊び、これを将来に伝えてゆくことを使命とする。
2. 九州大学はまた、諸々の学問における伝統を基盤として新しい展望を開き、世界に誇り得る先進的な知的成果を産み出してゆくことを使命とする。

文学部はこの『学術憲章』と、本学の教育全般の方針を定める『教育憲章』に則り、言葉に自覚的かつ批判的に関わる中で、人間存在の奥深さへと眼差しを向け、文化・歴史・社会の多様性を認識し、新たな人文学的知の創造に寄与する人材を育成することを、教育の目的としています。

この教育の目的のもとに、文学部は全体を一学科（人文学科）とし、哲学・歴史学・文学・人間科学の4コースの下に21の専門分野を置いています。国際コースの学生を含め、すべての学生は一年間基幹教育院の授業を受けた後、二年次からいずれかのコース・専門分野に所属し専門分野の講義・演習を受講するとともに文学部の全分野の多様な授業を履修することができます。そして最終的に、自らの関心に従って所属の専門分野からテーマを選び、四年間の勉学の集大成として自力で卒業論文をまとめます。

こうした文学部全体の履修の流れの中で国際コースは、一年次に英語を重視した語学の履修をすることが特徴です。二年次からいずれかのコース・専門分野に所属することは国際コース以外の学生と同じですが、日本の歴史、言語・文学、美術、宗教・哲学について英語で講義する **International Humanities** という授業を履修することが義務づけられていて、日本についての知識を国際的に発信する知識と能力を培います。また、留学が奨励され、長期の留学は人文学課題探求演習として単位が認定されます。また、専門80単位のうち40単位以上を外国語により実施される科目、または、授業の一部を外国語を用いて実施される科目で習得し、外国語による思考に習熟することを目指します。このような国際コース独自のカリキュラムで国際的に活躍できる能力を涵養しつつ、同時に、学生は国際コース以外の学生と同じように、一つの専門分野に所属して専門的な学識も深めます。

文学部に置かれる4コースの一つである歴史学コースは、日本史学、東洋史学、朝鮮

史学、考古学、西洋史学、イスラム文明学の6専門分野から構成されています。歴史学は、過去の探究と現代の認識との一さらには未来への見通しとの一間の相互対話の中でなされる精神的営みです。つまり、現代社会の成り立ちへの関心、現代とそれ以前の「異文化」社会との異質性・同質性への関心を重視する学問です。本コースは、特定の地域と時代における社会（経済・政治・文化の総体）の特質と相互間の共通性を、批判精神をもって実証的に、また理論的に解明することに主眼をおいています。具体的には、先学の著作を批判的に読む中で自らの問題関心を鍛え直してシャープなものとし、次いで、自ら直接に史・資料を解読し史跡を調査することにより、自らの視角から、ある特定の地域と時代の社会像を復原することが求められます。この過程で、人間精神の多様性を認識するセンス、論理的思考力と独創性を養います。

こうした教育の目的と教育プログラムのもとに、文学部人文学科歴史学コースは以下を達成した者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・人文学の基礎事項を十分に理解し人文学的素養を身につけた上で、思考方法、分析能力など各専門分野の知識と技能を身につける。
- ・人間・言語・文化・社会の諸現象を分析することを通して自ら問題を発見し、専門的知識・技能を用いて問題を解決へ導く実践的能力を身につける。
- ・研究の成果を明晰・正確に表現し、社会に発信するスキルを身につける。
- ・歴史学という人類の最も基本的な知に関する研究を通じて培った技能を応用し、自らの視角から、ある特定の地域と時代の社会像を復原して、人間存在を深く理解し、物事を根本から思索する能力を身につける。
- ・生活および仕事の場に応用可能な人文学的知性を身につけるとともに、言論と行動の自律と、誰からも支配されず誰をも支配しない他者との対等な関係を尊び、個人的利害から解放され公平に思考・行動できる市民性を身につける。
- ・（国際コース）外国語の高度な学習や海外での学び、英語による日本の人文学の学習を通して、国際社会で活躍する能力を身につける。

◆参照基準

- ・日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」歴史学分野
- ・Subject Benchmark Statement: History (2014)

◆学修目標

A. 主体的な学び・協働

- A-1. （主体的な学び）深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討することができる。
- A-2. （協働）多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。

B. 知識・理解

- B-1. （人文学の広範な知識と理解）人文学全般の多様な専門分野の基礎知識を身につけ、

人文学固有の思考や方法を説明できる。

B-2. (専門分野の知識と理解) 本コース6つのそれぞれの専門分野の基礎知識、その領域に固有の問題設定や研究手法を身につけ、それらを説明できる。

B-3. (歴史学コース固有の課題) 先行研究を批判的に読む中で自らの問題関心を鋭敏にし、史・資料を解読し史跡を調査することにより、自らの視角から、ある特定の地域と時代の社会像を復原できる。

B-4. (国際コース固有の課題) 英語により日本の人文学を学び、外国語による思考力を鍛え、日本社会や国際社会の諸問題を表現することができる。

C. 専門的技能

C-1. 知識・理解の応用

C-1-1. (文献分析力) 本コース6つのそれぞれの専門分野の基本文献を正確に解釈、分析することができる。

C-1-2. (研究手法) 本コース6つのそれぞれの専門分野に固有の問題設定を理解し、必要な史資料や文献を収集できる。

C-1-3. (表現力) 学問的な討論の場で、他者の意見を理解するとともに、自分の意見を明確に表現し、有効なコミュニケーションを取ることができる。

C-1-4. (外国語運用能力) 外国語の運用能力を高め、自らの考えを表現できる。また、自らが所属する専門分野が扱わない外国語を学び、言語の多様なあり方を説明できる。

C-2. 新しい知見の創出

C-2-1. (知識・理解の深化と統合) 本コース6つのそれぞれの専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法、研究手法を獲得し、知識を有機的に総合し、論文を作成することができる。

C-2-2. (独創性) 新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示しながら、論文を作成することができる。

D. 実践的場面での知識・理解の活用

(他者を尊重する公平な姿勢) 先行研究と自らの学説を批判的に討論し、自らの意見をより客観的視点から組み立て、他者の意見を尊重する、市民性のある公平な姿勢で論文を作成することができる。

新カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表(カリキュラム・マップ)の通り、教育課程を編成します。

まず、初年次(一部2年次以降)には、アクティブ・ラーニングを重視する科目(基幹教育セミナー、課題協学)、ICT国際社会に必要な能力の向上を目指す科目(サイバーセキュリティ基礎論)、教養としての言語運用能力習得と異文化理解を目指す科目(学

術英語、初修外国語)、専攻教育を通して英語力習得を目指す科目(専門英語)、専攻教育につながる基礎的知識と様々な分野の思考法を学ぶ科目(文系ディシプリン、理系ディシプリン)、ライフスキルの向上を目指す科目(健康・スポーツ)、多様な知識の獲得と学びの深化を目指す科目(総合、高年次基幹教育)などの基幹教育科目を通して、「主体的な学び・協働(A-1, 2)」を培います。国際コースの学生は、学術英語、専門英語に加え、Intensive English を履修し、英語の高度な運用能力を獲得します。

初年次にはまた、「人文学基礎 I・II」を通して、人文学の基礎的な知識の習得を目指すとともに、幅広く人間の創造力や知性に対する関心を養い、2年次に進む専門分野を選ぶため広く人文学固有の思考や方法に触れます。

初年次において培ったこうした主体的学び・協働の能力、人文学の基礎知識を基盤として、2年次以降に歴史学コースでは日本史学、東洋史学、朝鮮史学、考古学、西洋史学、イスラム文明学の6専門分野で学びます。4年次終了までに、それぞれの専門分野の講義、演習の科目を通して、専門分野における基礎的な技術と方法論を身につけ、それを深めるとともに、基本的な文献を読解する能力と、史資料についての洞察力を身につけます。演習ではまた、学問的な討論の場を通して、異なる意見を理解し尊重する姿勢を学ぶとともに、自分の意見を適確に表現する能力を培います。歴史学コースではどの専門分野でも史資料の読解を通じて歴史に対する分析的な把握力を培います。

さらに国際コースの学生は、国際コース独自のカリキュラムとして、2年次以降、「International Humanities I~X」を「国際コース共通科目」として8単位以上習得します。この8単位のうち4単位までは、長期の留学を単位として認める「人文学課題探求演習 I~II」で代えることができます。さらに、国際コースの学生は、専門80単位のうち40単位以上をF科目(外国語により実施される科目)またはF/J科目(授業の一部で外国語を用いて実施される科目)で習得します。外国語で作成された卒業論文の単位はF科目となり、また、外国語文献資料や外国語による研究成果を幅広く参照して作成された卒業論文の単位は、所定の申請書を提出した上で、F/J科目に認定されることがあります。

歴史学コースでは各専門分野を貫く共通の方法論・史学史についての素養を身につけるため、コース共通科目として「史学概論」を履修します。さらに、「人文学 I~IV」を2単位以上履修して、あるテーマを軸にした人文学全般の視点を学びます。

こうしたカリキュラムのもと、特に3年次になると、人文学への幅広い関心や知識を育みながらも、卒業論文を視野に入れつつ、専門的な知識や技術を深めていきます。

4年次には、卒業論文の作成を具体的な目標とすることで、獲得した知識や情報を有機的に統合し、歴史学的方法論への理解を深めるとともに、自ら問題を設定し解決していく姿勢を育みます。また自分の意見を論理的に表現する能力を高めます。

4年次の最後には、こうして培った「A. 主体的学び・協働」、「B. 知識・理解」、「C. 専門的スキル」、「D. 実践的場面での知識・理解の活用」を卒業論文として結実させます。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み(内部質保証)】

上記のカリキュラムは、三つの分節に区分して運用します。第1分節(1年次)は、導入的な学びの姿勢と知識・理解を習得する「導入」期、第2分節(2~3年次)は基礎

的な知識・理解およびその活用力を習得する「基礎」期、第3分節（4年次）は知識・能力の発展・統合と新しい知識の創出に取り組む「発展・統合」期と位置づけます。

各分節の中で焦点化した学修目標の達成度は、それぞれの分節の後、あるいはその終盤に、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目内の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかをFD委員会による「カリキュラム検討FD」において検討することで、教学マネジメントを推進します。

《アセスメント・プラン》

・「導入」期の評価：「人文学基礎Ⅰ・Ⅱ」の授業アンケートに基づき、カリキュラムの改善の可能性を検討する。

・「基礎」期の評価：各授業の授業アンケートに基づき、カリキュラムの有効性を評価し、改善の可能性を検討する。

・「発展・統合」期の評価：卒業論文を、共通ルーブリックに基づいて審査することにより、カリキュラムの有効性を評価し、改善の可能性を検討する。

新アドミッション・ポリシー

◆求める学生像

国立大学法人九州大学では、本学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身につけ、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、多様な幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めています。

九州大学文学部人文学科では、自ら問題を見出し、筋道を立てて思考し、正確に表現できる学生の育成を目指しています。そのためには、自ら調査、読書をし、他の人々と対話しつつ自らの考えを発展させていく姿勢が大切です。それゆえ、文学部で学ぼうとする学生には、何よりも次の三つの資質を備えていることが望まれます。

1. 言葉への強い興味。とりわけ、文学作品や古典に対する感受性
2. 人間への飽くなき好奇心と、「私とは何か？」という真摯な問いかけ
3. 文化・歴史・社会といった、世界の多様性への開かれた関心

さらに、国際コースの学生には、特に次のような資質を備えていることが望まれます。

1. 日本語と、複数の外国語への強い興味、ならびに文学や思想に対する感受性。
2. 世界の多様な文化・歴史・社会への開かれた関心。
3. 将来国際人として活躍することへの意欲。

◆求める学生像と学力3要素との関連

1. 知識・技能：高等学校等における基礎的教科・科目の履修を通して獲得される知識・技能。
2. 思考力・判断力・表現力等の能力：自らが行う研究で問題を発見し、仮説を構築するとともに、多面的に考え、客観的に批判して自身の仮説を鍛え、それを自分の言葉で人

に伝える資質。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度：人間や言葉への広い関心から主体的に学ぶ意欲、多様性を尊重する態度、異なる考えに共感する寛容性。

◆入学者選抜方法との関係

本学文学部では、次の3種類の入試を実施しています。国際コース以外の学生のプログラムでは、これらのうち、「一般選抜（前期）」「一般選抜（後期）」の入試を課します。また、国際コースの学生のプログラムでは、これらのうち、「総合選抜型」の入試を課します。

	2. 知識・技能	2. 思考力・判断力・表現力等の能力	3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
一般選抜（前期）	大学入学共通テスト 個別学力検査	個別学力検査	調査書
一般選抜（後期）	大学入学共通テスト 小論文	小論文	調査書 志望理由書
総合型選抜 （国際コース）	調査書 大学入学共通テスト	英語小論文	調査書、志望理由書 英語による個人面接

◆入学者選抜の基本方針（入学要件、選抜方式、選抜基準等）

文学部は高等学校の教育課程を尊重し、受験生の基本的知識、論理的思考力、表現能力を重視しています。

大学入学共通テストにおいては、幅広い基本的知識の習得を見るため、国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語を課しています。

その上で、本学文学部では、次の3種類の入試を実施しています。

一般選抜（前期日程）においては、より深い知識と論理的思考力を見るため、国語・数学・外国語・地理歴史を課し、主にマークシート方式である大学入学共通テストを補完する形で記述式の問題を中心に出題しています。また、主体性等を評価するために、調査書を利用しています。

一般選抜（後期日程）においては、論理的思考力と表現能力を見るため、小論文を課し、さらに、文学部を選んだ動機、いかに学び、それを将来いかに役立てるかを問う志望理由書を課しています。

総合型選抜（国際コース）においては、日本語と、複数の外国語への強い興味、ならびに文学や思想に対する感受性、世界の多様な文化・歴史・社会への開かれた関心、将来国際人として活躍することへの意欲などの資質を見るために、志望理由書、英語小論文、英語による個人面接を課しています。